

平成23年度三次市公共事業評価監視委員会【議事要旨】

開催日時 平成23年12月20日(火) 13時30分開会 17時30分閉会
開催場所 三良坂支所 2階会議室
出席委員 若井具宜委員長，高井広行委員，山下俊明委員，平田百合子委員，
松岡真理子委員
市出席者 増田市長
建設部 花本部長，坂本課長，沖田係長，信佐主任，伊藤主任
(株)オオバ小宮
地域振興部 藤井部長，山本企画調整課長，杉原係長，宮脇主任，大谷主任

現地視察

・都市再生整備計画みらさか地区

議事(1) 都市再生整備計画事業の概要説明

議事(2) 「都市再生整備計画みらさか地区」の事業計画説明

説明を受け，後ほど審議の中で，質問等をする。

議事(3) 事後評価手続き等にかかる審議

委員長 まず，議事(3)に係る審議事項全般について質疑を行い，その後項目ごとに意見をまとめていきたいと思う。

委員 成果の評価の評価指標は，指標1公道非接道土地の解消については指標としては問題がないが，指標2生活拠点としての満足度は，地区内居住者への質問となっているが，現在整備中でもあり，満足度も低く実際に評価指標として相応しいのか。

また，その他指標1地区内公共施設利用者の増加については，整備をしたから本当に利用者が増えたのか，放課後児童クラブ等の実施による増は整備とどう関係があるのか，きちんと整理する必要がある。

その他指標2公共施設へのアクセス性の向上については，サンプルで評価できるのか。すべての地点の距離をとるなら整備の効果と言えるが，サンプルで指標としての役割を果たしているのか。

指標の意味，定義，位置づけがあまりうたわれていない。きちんと押さえておかなければ，評価にならないのではないのか。

三次市 都市再生整備計画の目標には，「生活拠点づくり」があります。地区拠点を作るということは利便性の向上を前提にしています。指標2生活拠点としての満足度については，整備途中ということもあり，数値的にも低いのはご指摘

のとおりです。

しかしながらこの評価は、国土交通省のマニュアルに沿って評価を行っており、指標は従前値との比較ということで、当初設定したものを使うことになっております。ご指摘の通り整備途中でもあることから、指標の使用について国土交通省にも確認いたしました。マニュアル通りに行うようにと回答を得ています。

この代替として、その他指標1, 2を設定しました。

委員のご指摘の通り、整備と指標の関係性については、再検討し、適宜書き加えます。

また、その他指標2の取り方ですが、当初、国土交通省との協議の時点では、グリッドの座標で距離を計算して提出しましたが、国土交通省の方から、この事後評価シートは市民への公表を前提としたものであるから、市民にわかりやすいように1箇所からの距離にするようにとのご意見を頂き、このような指標設定になりました。

委員 この計画の目的が拠点性の向上であると、地区内居住者に理解されているのか。この指標2を使うのなら工夫が必要である。

例えば、H18年では、「満足している」と答えた人が12名だったが、今回は17名に増えているとか、H18年では「あまり満足していない」と答えた人が35名から23名に減ったとか、説明に工夫が必要である。

内容を見てどうなったかを説明に加えたらどうか。

また、市民に公表する場合、整備とどのように関係があるのか、わかるように記載する必要がある。

その他指標2については、ブロックで取ることもできるのではないかと分譲地として処分する予定もあることから、分譲地からどうなのかという考え方の方が市民によくわかるのではないかと。

また指標2のアンケートをとった人の中には、駅前に住んでいる人も入っているのか。入っているとすれば、整備が進んでいない駅前の居住者も含めてアンケートをとっているという説明がないと説明不足ではないのか。

三次市 指標については、ご指摘の面は確かにあり、整備効果を目に見える形でできるだけわかりやすくするため、その他指標設定の段階で、国土交通省とも協議を重ね、慎重に設定しています。ご指摘のあった指標2については、評価シート原案「様式2-1 評価結果のまとめ」中の「効果発現要因(総合所見)」の中に書き込みます。またその他指標1については、整備と地区内公共施設利用者の増加との関連性がわかるように、同じく書き加えます。

指標2についても、従前同様に地区内居住者を対象としたアンケート調査のため、全く整備が進んでいない駅前居住者も含まれるという説明を「添付様

式 2 - 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況」中のその他特記事項（指標計測上の問題点、課題等）中に書き加えます。

委員 その他指標 2 での公共施設は、学校、支所、農村ふるさとセンターになっているが、駅をとることはできないのか。

三次市 まだ橋がかかってないので、駅への距離を数値としてとることは難しいです。

委員 思いとしては、指標は従前以上の値が出て欲しい。整備をしているのだから、効果として 1 %でも 2 %でもあがらなければならない。その説明をきちんとして欲しい。

委員 数字にプラスして文書で説明をいれたらいかがか。例えば、これまで子どもたちはあぜ道を通って学校に通っていたが、道路の整備によって、安全な舗装した道を通って学校に通うことができる。親の立場から見たら数値には出てこないが、安心は格段に増しているはずである。

委員 市民の立場として、三良坂町の住民の方の意見を聞くと、この数値より満足度が低いように感じる。事業があまりに遅延にすぎるといった意見が多い。迅速な整備を望む。

委員 アンケートをとった 150 人は、地区の人数か。

三次市 はい。地区の振興協会の会員 75 人 × 家族 2 = 150 人を対象に調査しています。

委員 アンケート結果を見ると、H23 調査には「その他」が入っており、前回と項目が違うのではないかと感じます。同じ選択肢ではいといけません。

三次市 H18 調査と同じ調査項目で調査をしました。ただ集計方法が、H18 は「その他」を選んだものが 2 件ありましたが、内容により ~ へ振り分けたようです。

委員 それは大いに問題である。アンケートの「その他」は「その他」に入れるべきである。もし「その他」を除くなら、振り分けるのではなく抜く方法もある。気をつけて欲しい。同じ計算方法でいかなければならない。「その他」を除いた数値にするほうがいいのではないかと感じます。

三次市 原則として制度上、H18 の数値を変えることはできませんが、国土交通省と協議をしてみます。

H23 調査については、「その他」を除きその旨を「添付様式 2 - 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況」中のその他特記事項（指標計測上の問題点、課題等）中に書き加えます。

委員長 事務局で調整してください。

委員 区域が縮小するのは、行革の一貫か。また区域外となる地域の補償は考えているのか。

三次市 事業着手から 10 年以上経過しており、住民の高齢化も始まっていることか

ら、事業を効率的かつ迅速に進めるための措置です。また区域外となる方々とは、市としてどのような支援ができるか協議をしているところです。

三次市 16～17戸が区域外になります。側溝，下水道などこれまで区画整理を予定しているために進んでいなかった事業を整備の進んだ上流地域と同じ程度に整備をしていきます。また家屋の修繕についても，立ち退きが前提であったため，修繕を遠慮していただいていたという経緯もあり，個人の住宅の修繕についても支援を検討しています。地域の住民の皆様と今後のまちづくりについても共通の認識を持つように協議をしています。市としてできるだけの支援を考えております。

この点については，議事(4)の今後のまちづくりの方策のなかで加えていきます。

【 結論 】

- ・方法書，成果の評価，実施過程の評価，効果発言要因の整理，事後評価原案の公表の妥当性，その他議事3全体として，これまでの各委員の意見をまとめて，追加で書き込みすることとして，事後評価が適正に実施されていることを確認したとする。

議事(4) 今後のまちづくりについての審議

委員長 今後のまちづくり方策の作成については，いかがか。

委員 三良坂の土地を探している人の話を聞くことがあるが，事業が進んでいないことに苛立ちを感じておられる。少しでも早く事業が進み，経済活動に寄与できるようにしてほしい。部分的にでも土地の販売ができれば，かなり町の活性化にもつながると思う。

また以前田を作っていた方は，こんなに長く事業が進まないことに不満はないのか。

三次市 田を作っておられた方については，補償もしており，納得していただいています。

現在，事業区域の縮小に伴う仮換地の説明中で，土地が販売できるようになるまでにはもう少しかかりますが，できるだけ迅速に進めていきます。

委員 人口増加，定住促進の面からも早く事業を進めて，経済効果を出していくことが大切だ。長引くと市の費用も増えていくし早く進めて欲しい。

【 結論 】

- ・今後のまちづくり方策の作成，フォローアップ，その他，議事4全般について，委員の意見を取り入れた記述にすることとして，今後のまちづくり方策は妥当であるとす
- る。